

photo: Norio Kidera

Havsduva - 海辺の鳩

窓の片隅に静かに佇み

遠くを見つめる目線の先に海辺を想う。 - 皆川 明

北欧から海を渡り舞い降りる

皆川 明と スウェーデンの製陶工場 Keramikstudion Gustavsberg の "海辺の鳩 -Havsduva"。

12月16日より発売予定

大阪を拠点に世界を巡り、独自の視点でセレクトした気持ちが豊かになる品々を扱うインテリアショップ dieci (ディエチ)。この度、dieci の企画により、スウェーデンの製陶工場「Keramikstudion Gustavsberg (ケラミックスタディオン・グスタフスベリ)」にて、ミナ ペルホネン 皆川 明 氏デザインによる鳩のオブジェ「Havsduva- 海辺の鳩」を製作いたしました。11月16日(土)より、東京都現代美術館で開催されるミナ ペルホネンの展覧会「ミナ ペルホネン/皆川 明 つづく」に合わせ発表、12月16日(月)より発売いたします。



photo: Norio Kidera

ストックホルムから南東へ 20km ほど離れた場所に位置する港街グスタフスベリ。ここは、1825 年に創業された歴史ある製陶工場 Gustavsberg（グスタフスベリ）社のゆかりの地であり、現在も様々な陶磁器やガラス工場、作家たちのスタジオが集まるものづくりの街としても知られています。

1942 年、当時グスタフスベリ社のアーティスティック・ディレクターであったヴィルヘルム・コーゲによって設立された "グスタフスベリ・スタジオ"。ベルント・フリードベリ、スティグ・リンドベリ、リサ・ラーソン等、北欧を代表する名だたる作家が在籍。アーティストをデザイナーとして起用するスタイルで、アートと工場での技術をうまく融合させ、独創的で美しくありながらも実用性のある陶芸作品を多数生み出してきました。作家たちは、ユニークピースの製作にも積極的に取り組み、個性豊かで芸術性の高いその作品の数々は、北欧デザインの黄金期ともいえるミッドセンチュリー時代の象徴的な作品となり、コレクタブルなアイテムとして現代もなお愛されて続けています。

その後、1980 年頃はグスタフスベリ社も諸外国との生産競争により困難な時代を迎え、1987 年には外国の企業へ売却、グスタフスベリでの生産が終了となりました。しかし、まもなくして 1992 年、リサ・ラーソンが、グスタフスベリ社在籍時代の同僚であった Franeo Nicolosi（フランコ・ニコロシ）、Siv Solins（シーヴ・ソリンズ）と共に、Keramikstudion Gustavsberg

（ケラミックスタディオン・グスタフスベリ）社を設立。グスタフスベリ社のクオリティと伝統を受け継ぎ、熟練の職人の手仕事による作品づくりを継承しています。現在は、リサ・ラーソンやスティグ・リンドベリの複製品とともに、定期的に新作を発表するなど今も芸術性の高い作品をつくり続けています。

このような歴史あるケラミックスタディオン・グスタフスベリの魅力をもっと多くの方々に知っていただきたいと、dieci では、近年、日本人作家との作品の企画に取り組んでいます。そのひとつが、今回発表となるミナ ペルホネン 皆川 明氏と共同製作した作品です。北欧にゆかりがあり、リサ・ラーソンとの親交も深い皆川氏。グスタフスベリの街に訪れたこともある彼の提案は、鳩をモチーフにしたオブジェ。「海辺の鳩」と名付けたその作品は、皆川氏が粘土で形づくった鳩のフォームをベースに、現地で型をつくり成形、皆川氏のハンドドローイングをベースに、職人が絵付けをしていくといった共同製作のプロセスをとっています。

北欧のマリンブルーを想起させるような、深く清らかな青色。手書きによって一点、一点少しずつ表情が異なる鳩のオブジェは、愛らしくも、切なくも汲み取れる豊かな表情を出しています。港街グスタフスベリの一角、窓辺に佇み、遠くを見つめる一羽の鳩。希望を乗せて、北欧から海を渡りこの秋、東京に舞い降ります。



商品名：Havsduva（海辺の鳩）

価格： ¥16,000（予価・税別）

サイズ：16.5 × 16.5 × 8 cm

デザイン：皆川 明

製造： Keramikstudion Gustavsberg

発売日：12月16日

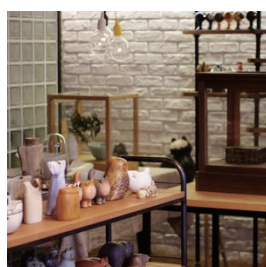
販売： dieci、東京都現代美術館「ミナ ペルホネン／皆川 明 つづく」展（会期中、併設ミュージアムショップ内）他

PROFILE



皆川 明 デザイナー

1967年生まれ。ファッション・テキスタイルを中心に活動するブランド「ミナ ペルホネン (minä perhonen)」主宰。ペルホネンとは、フィンランド語で蝶の意味。流行にとらわれないデザインと物づくりの思想を軸とする。エレガントで洗練された作品は、皆川氏の北欧デザインの美意識にも通じる文化への眼差しから生まれ、表情豊かに広がりを見せている。ヴィトラ、フリッツ・ハンセン、アルテックといったデザインブランドとのコラボレーションも多数。衣服に限らず、現在は デザインに関わる幅広い分野で家具やテーブルウェア、さまざまな日用品の制作にもその豊かな想像力を発揮している。今年11月には、東京都現代美術館にて大規模な展覧会「ミナ ペルホネン / 皆川 明 つづく」を開催。2006年第24回 毎日ファッション大賞、2016年には権威ある毎日デザイン賞を受賞。



dieci (ディエチ)

「それがそこにある事で気持ちがほんの少し豊かになるインテリア」をコンセプトに、1999年にスタートしたインテリアショップ。世界中で自ら買い付けたアイテムや、こだわりのある作り手や紹介者の方に分けて頂いた、背景にストーリーがあるアイテムを販売。大阪市内にテーマの異なる3店舗を構え、家具やクラフト、洋服、アクセサリ、フードやカフェなど暮らしにまつわる様々なアイテムを展開。作家や作り手との親交も深く、商品企画や展覧会の企画などにも携わる。また、日本代理店を務めるスウェーデンのKERAMIK STUDIO社が製作するLISA LARSONの作品は国内随一を誇る品揃え。 <http://dieci-cafe.com>

- dieci | dieci cafe 530-0041 大阪市北区天神橋 1-1-11 天一ビル 1・2F Tel&Fax : 06-6882-7828
- DIECI 205 541-0059 大阪市中央区博労町 4-3-14 柴田ビル 205,207,208 Tel : 06-6121-7220
- dieci 芝川ビル店 541-0044 大阪市中央区伏見町 3-3-3 芝川ビル 305 号室 Tel : 06-6282-7334
営業時間：12:00-19:00 火曜休（芝川ビル店 火・水曜日休）

PRESS CONTACT

本件に関するご質問、取材やサンプルのお貸出し、掲載等に関するお問い合わせは下記までご連絡下さい。

daily press 川村 美帆 | 03-6416-3201 mihokawamura@dialypress.org